

校長室より

暗唱だより
令和6年6月
第三吾孺小学校長
川中子 登志雄



あくたがわ りゅうのすけ

だんだんと暑くなってきましたね。これから本格的に雨の季節に入ります。6月には、5年生の那須甲子移動教室と6年生の日光移動学習教室が予定されています。現在、準備の学習を進めているところですが、元氣に行かれるよう体調管理にも気をつけてください。

さて、6月の暗唱課題は…

芥川龍之介 『杜子春』

文学作品として芸術性を踏まえた短編あるいは中編作品を書いた新人作家に与えられる文学賞として知られる「芥川賞」というのを聞いたことがありますか。毎年2回、優秀な小説が選ばれ、話題になります。その賞の名前にもなっている作家・芥川龍之介は、1982年(明治25年)3月1日に東京、今の中央区で生まれ、生後7ヶ月の時に、母親の実家である芥川家に預けられ育てられました。芥川家は本所、今の墨田区両国にあり、龍之介は区内の両国小学校の卒業生だそうです。

『杜子春』は、1920年(大正9年)に雑誌『赤い鳥』にて発表されました。これは、もともとは中国にあったお話を元に書かれた作品です。

唐王朝の洛陽に、杜子春という青年がいました。お金持ちの息子でしたが、財産を使い果たしてその日の暮らしにも困るほどになっていました。ある日、ひとりの老人がやってきて、「夕日の光の中に立ち、お前の影の頭の部分を掘るように」といって去っていきます。とりあえずいわれたとおりにしてみると、地面の中からたくさんの黄金が出てたのです。一夜にして大金持ちになった杜子春ですが、遊びほうけて財産を使い果たします。するとまたあの老人がやってきて、黄金を見つける方法を教えてくれます。それをまた使い果たして…ということを知り返したあと、杜子春は財産はいつでもよくなりました。彼は老人が仙人だと気づき、弟子入りさせてほしいと頼みます。老人は杜子春を連れて山へ飛んでいき、仙人になるための試練を与えます。それは「どんなことがあっても声を出さな」というものでした。果たして、杜子春は仙人になれるのでしょうか？



6. 7月英語の課題は「ヒッコリー・ディッコリー・ドック」

マザーグースのうたから、柱時計とねずみをうたった詩に挑戦です。「ヒッコリー・ディッコリー・ドック」という言葉は、音が楽しいだけで、特別な意味はないようです。